

-Program-

<1>古典とバロック

- ・ディヴェルティメントK.138 へ長調 (モーツァルト)
- ・合奏協奏曲「調和の靈感」第11番 二短調 (ヴィヴァルディ)

<2>北の国のポピュラー音楽

- ・Wild Child (アイルランド～エンヤ)
- ・明日 (カナダ～アンドレ・ギャニオン)
- ・冬のオリンピックテーマ曲メドレー
白い恋人たち～虹と雪のバラード
- ・北海道で当地ソングメドレー
函館の女～小樽のひとよ～霧の摩周湖～
知床旅情～石狩挽歌～襟裳岬

<3>ドヴォルザークにチャレンジ

- ・弦楽セレナーデ 二短調 Op.44 (ドヴォルザーク)



Stage1 古典とバロック

●ディヴェルティメント K.138 へ長調 (モーツァルト)

1 Allegro 2 Andante 3 Presto

「ディヴェルティメント」というイタリア語には、人を楽しませるといった意味合いがあるそうで、古典派から現代の作曲家に至るまで、多くの作曲家がこの名を付けた曲を作っています。

アマデウス・モーツァルトも20曲以上のディヴェルティメントという名称の曲を作っています。しかし、そのほとんどは木管楽器だけ、または木管楽器プラス弦楽器用に作られた曲で、弦楽合奏

のためだけに作られた K.136～ K.138 の3曲は、演奏される機会が多い割にはむしろ珍しいのです。モーツァルトはこれらの3曲を16歳の時に作曲したということですから、まさに早熟の天才と呼ばれるにふさわしい作曲家ですね。

●解説：高橋文明 (チェロ)

●合奏協奏曲「調和の靈感」第11番二短調 (ヴィヴァルディ)

1 Allegro 2 Largo e Spiccato 3 Allegro

ヴィヴァルディは『協奏曲の父』と言われるほど非常に多数の協奏曲を書きました。生涯に残した約650曲ほどの作品の内、500曲あまりが協奏曲です。今回はその中から、12曲の協奏曲集からなる作品3「調和の靈感」より第11番二短調を演奏します。

ヴィヴァルディといえばやはり「四季」が有名ですが、この「調和の靈感」も勝るとも劣らない名作です。当時としては斬新な和声を取り入れたこの作品は1711年に発表した当時ヨーロッパで一大センセーションを巻き起こしたと言われていました。今回演奏するのは、2つのヴァイオリンとチェロのための協奏曲です。2本のヴァイオリンが絡み合う緊張感、チェロの低音の響きによる、どこことなく不安な、またミステリアスなメロディが聴きどころです。 ●解説：中田友樹 (ピオラ)



Stage2 北国のポピュラー音楽

北の国で生まれた、皆さんがよくご存じのポピュラー音楽を特集してみました。

1. Wild Child (アイルランド)

曲：エンヤ 編曲：島崎洋

エンヤはアイルランドの女性ミュージシャン。

その透き通った歌声とサウンドは、曲の断片を少し聞いただけでも彼女のものと判るほど特徴があります。

ケルト音楽を基礎とした癒し系音楽ですが、環境メッセージのBGMとしてもよく使われているようです。映画「ロード・オブ・ザ・リング」の主題歌「メイ・イット・ビー」も彼女の曲です。

「ワイルド・チャイルド」はアルバム「ア・デイ・ウィズアウト・レイン」の中の1曲で、シングルカットされています。

2. 明日 (カナダ)

曲：アンドレ・ギャニオン 編曲：島崎洋

アンドレ・ギャニオンは1942年カナダ生まれのピアニスト兼作曲家で、ヒーリングミュージックの大御所と言われています。その美しいメロディは日本のテレビドラマでもしばしば使われており、本日演奏する「明日」は倉本聡さん脚本で富良野を舞台にしたドラマ「優しい時間」のテーマ曲で、平原綾香さんが歌っています。

3. 冬のオリンピックテーマ曲メドレー

白い恋人たち～虹と雪のバラード

曲：フランシス・レイ、村井邦彦 編曲：島崎洋

冬のオリンピックにちなむ2曲を演奏します。

「白い恋人たち」は1968年、フランスのグルノーブル大会を記録した映画に使われた曲で、フランシス・レイが音楽を担当しています。

トア・エ・モアが歌う「虹と雪のバラード」は、札幌オリンピックの期間中、誰もが口ずさんだ、名実ともにテーマ曲と言えるでしょう。

4. 北海道で当地ソングメドレー

函館の女～小樽のひとよ～霧の摩周湖～知床旅

情～石狩挽歌～襟裳岬

曲：島津伸男、鶴岡雅義、平尾正晃、森繁久弥、浜圭介、吉田拓郎 編曲：島崎洋

最後は、曲名に北海道各地の地名が付いた『ご当地ソング』を集めてみました。演歌チックな昭和歌謡が中心ですが、よろしければどうぞ一緒に口ずさんでみてください。

●解説：島崎洋 (指揮・編曲)



Stage3 ドヴォルザークにチャレンジ

●「弦楽セレナーデ」二短調 Op.44

(ドヴォルザーク)



ドヴォルザークといえば、交響曲「新世界より」や「ユモレスク」、「スラブ舞曲」など、誰もが一度は耳にしたことがあるメロディを生み出した、人気作曲家の一人です。

本日演奏する「弦楽セレナーデ」は、先に挙げた名曲たちが生まれる前の1875年に作曲されました。ドヴォルザークは30代半ばで、12日間ほどで一気に書き上げたといわれています。若さと勢いにあふれた初期の代表曲といえるでしょう。

この頃のドヴォルザークは公私共に充実しており、オーストリア政府から認められ、国家奨学金を得て多くの名曲を生み出しました。

同名のチャイコフスキーの作品のようなドラマチックな展開や華やかさには欠けるかもしれませんが、素朴で美しく、自由な発想で展開され、聞いていて飽きのこない名曲といえるでしょう。

●解説：伊東朋美 (チェロ)



【 北海道で当地ソングメドレー 】

①函館の女

はるばる来たぜ 函館へ
さか巻く波を のりこえて
あとは追うなと 云いながら
うしろ姿で 泣いてた君を
おもいだすたび 逢いたくて
とてもがまんが
できなかつたよ

②小樽のひとよ

逢いたい気持ち
ままならぬ
北国の街は つめたく遠い
粉雪まいちる 小樽の駅に
ああ一人残して 来たけれど
忘れはしない 愛する人よ
(待ってておくれ)



③霧の摩周湖

霧にだかれて しずかに眠る
星も見えない 湖にひとり
ちぎれた 愛の
思い出さえも
映さぬ水に あふれる涙
霧にあなたの 名前を呼べば
こだませつない
摩周湖の夜

④知床旅情

知床の岬に
はまなすの咲くころ
思い出しておくれ
俺たちのことを
飲んで騒いで
丘にのぼれば
遥か国後に
白夜は明ける



⑤石狩挽歌

海猫こめが鳴くから
ニシンが来ると
赤い筒袖の やん衆がさわぐ
雪に埋もれた 番屋の隅で
わたしゃ夜通し 飯を炊く
あれからニシンは
どこへ行ったやら
破れた網は 問い刺し網か
今じゃ浜辺で
オンボロ オンボロボロ
沖を通るは 笠戸丸
わたしゃ涙で にしん曇りの
空を見る

⑥襟裳岬

北の街では もう
悲しみを 暖炉で
燃やしはじめてるらしい
理由のわからないことで
悩んでいるうち
老いぼれてしまうから
黙りとおした 歳月を
ひろい集めて 暖めあおう
襟裳の春は
何もない春です
(遠慮はいらさないから
暖まってゆきなよ)